

皆さん、おはようございます。

第三学期の終業式、そして令和七年度修了の日を迎えました。この三学期は大雪のため、三日と半日も臨時休業にせざるを得ないほどに影響を受けましたが、こうして皆さんとともに、無事令和七年度修了の日を迎えられたことをうれしく、またありがたく思います。三学期の分は後の伝達表彰にもありますが、今年度も、部活動を中心に、研究活動やコンテスト等、大変多くの輝かしい成果が収められた一年でした。生徒の皆さんに感謝しています。

本日私からは、二点お話をします。

一点目、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックで、フィギュアスケートのペア日本勢初の金メダルを獲得した「りくりゆう」こと三浦璃来・木原龍一ペアについては、多くの人が知っていることと思います。ショートプログラム五位からの大逆転という、オリンピックの舞台での華麗な演技で、私も含め多くの人々が魅了されました。

スケートを含むウィンタースポーツは、冬場がシーズンですが、力が発揮しにくいオフシーズンが長い競技でもあり、金メダルに至るまで平坦ではない道のり、何年間にも及ぶ相当の苦労や努力があったと報じられています。

その「りくりゆう」ペアは、金メダル獲得後のインタビューで、「私達を支えてくださった全ての方々に感謝」という言葉を述べられました。

感謝の気持ちを持つということは、脳内でセロトニンやオキシトシンなどの「幸福ホルモン」の分泌が促され、身体的な健康（免疫力向上、睡眠の質向上）や精神的な安定（ストレス軽減など）をもたらす科学的に証明された、人間の幸福へのアプローチだそうです。例えば、日々の「ありがとう」の気持ち心が心身を整え、幸せの度合い、いわゆる幸福度を高めます。逆に、不幸は、現状に不満を持ち、それを「当たり前」と感じてしまう日常の状態から起こると指摘されています。端的に言い表すと、感謝ができる状態が「幸せ」、感謝ができない状態が「不幸」であるとなります。

世界に目を向けますと、イランに対し、アメリカとイスラエルが戦争を起こしています。ガソリン価格の高騰など、私たちの生活にも少なからず影響が始めています。こうして学校生活が送れ、無事に七年度修了の日を迎えられていることにも、多くの方々の支えがあつてこそのものであることを忘れないでください。例えば、現在、実習船「みずなぎ」は、山口県下関市のドックにて点検・整備中ですが、実習ができるのもこうした乗組員さんなどのお陰であると感謝しましょう。そして、みんなで幸せになりましょう。

次に二つ目、先日三月十五日まで、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開催されました。

パラリンピックですから、身体障害のあるトップアスリートの方が出場する世界最高峰の国際競技大会です。今回の冬季パラリンピックに出場された村岡桃佳さんを、皆さんは知っているでしょうか。

村岡選手は、四歳から車いす生活を送られていますが、パラアルペンスキー 女子スーパー大回転（座位）銀メダル、また、パラアルペンスキー 女子大回転（座位）でも銀メダルを獲得されましたが、こんな言葉を述べられています。

「誰かの後ろをついてばかりの自分を卒業する機会だと思っている。」これは、他の人の

やっていることを意識しながら行動するのではなく、自らの考えで主体的に行動をしていくべきであると解釈できます。つまり、自分の行動、人生は自分の意思で切り開いていくことを意味しています。

皆さんも、新学期に向け、本校を卒業した後の、なりたい自分の姿を展望し、村岡選手の言葉のように、他人に左右されず目標を定め、妥協することなく行動してください。明日からの春休みは、教科の宿題等が少ない時期かもしれませんが、しかし、それぞれが、教科の復習・予習等の学習、もちろん出された課題、資格取得、読書、進路の調査や対策、一般教養、部活動などなど、それぞれが目標を立て、将来なりたい自分を想像し、是非何か、今までとは違う視点で、新たなことに取り組んでもらえればと思います。

結びになります。四月一日から、自動車などに適用されていた交通反則通告制度、いわゆる「青切符」制度が自転車にも適用されます。

これは、十六歳以上の者が行った自転車の反則行為（信号無視や一時不停止など、警察官が実際に見て、明らかに違反行為を行ったと判断できるもの）について、反則金を納めることとなります。お互いが交通マナーを高め、事故の加害者にも被害者にもならないよう気を付けたいと思います。

二月二十七日に、三年生が卒業しました。ここにいらっしゃる皆さんは、四月からそれぞれ二年生、三年生という新しい学年に進級します。後輩が入学してくることからも、一層責任感ある行動が求められてきます。

次は四月八日（水）、離着任式、始業式に登校しますが、九日は入学式と、学校にとって大切な年度の始まりの時期を迎えます。

元気な姿、そして幸せな気持ちを持って、ここに集ってもらえることを楽しみにしております。

以上、式辞とします。

令和八年三月十九日

京都府立海洋高等学校

校長

上林

秋男